

令和3年度 学校推薦型選抜Ⅰ

鹿児島大学 医学部 保健学科
理学療法学専攻・作業療法学専攻

小論文

- ・開始の合図があるまで、表紙は開かないで下さい。
- ・問題用紙は、2枚です。
- ・解答用紙は、2枚です。
- ・下書き用紙は、2枚です。
- ・開始の合図があったら、解答を始める前に、問題用紙、解答用紙、下書き用紙の各枚数を確認して下さい。
- ・解答は、全て解答用紙に横書きで記述して下さい。また、必ず問題1は問題1の解答用紙に、問題2は問題2の解答用紙に解答してください。
- ・受験番号と氏名を2枚の解答用紙に必ず記入して下さい。
- ・問題用紙と下書き用紙は、持ち帰って構いません。

令和3年度 学校推薦型選抜Ⅰ小論文問題 【問題1】

－理学療法学専攻・作業療法学専攻－

[問題]下の表は、全国の民間企業における障害者雇用状況の推移を示したものである。この表からどのようにことがわかるか、またこのデータから導かれる問題点は何かを述べ、さらにあなたの障害者雇用に対する考え方を、380字以上400字以内で述べなさい。

民間企業における障害者雇用状況の推移

(各年6月1日現在)

年	雇用されている障害者の数 (人)	実雇用率 (%)	法定雇用率達成 企業の割合 (%)	6月1日 現在の 法定雇用率 (%)
1980	135,228	1.13	51.6	1.5
1985	168,276	1.26	53.5	1.5
1990	203,634	1.32	52.2	1.6
1995	247,077	1.45	50.6	1.6
2000	252,836	1.49	44.3	1.8
2005	269,066	1.49	42.1	1.8
2010	342,973	1.68	47.0	1.8
2015	453,133	1.88	47.2	2.0
2019	560,608	2.11	48.0	2.2

注1：表は1977年から毎年6月1日現在で調査され、独立行政法人労働政策研究・研修機構により公開されている統計データより、1980年から5年ごとのデータを抜粋し、小数点以下の一部の数字を省略したものである。

注2：障害者の数は、1985年までは身体障害者のみ、1990年以降は知的障害者を含めた数、2010年以降はさらに精神障害者を含めた数である。

注3：実雇用率：民間企業に雇用されている障害者の数を障害者全体の数で割った割合である。

注4：法定雇用率：「障害者の雇用の促進等に関する法律」に基づき決められた、民間企業が雇用しなければならない障害者の割合である。

(表は、独立行政法人労働政策研究・研修機構「統計データ」より引用)

令和3年度 学校推薦型選抜Ⅰ小論文問題 【問題2】

－理学療法学専攻・作業療法学専攻－

【問題】著者は「成人では、対人関係のときに視線に困ることが起こる」と述べているが、それはどのようなことか説明し、対人関係における表情の重要性についてあなたの考えを、380字以上400字以内で述べなさい。

【課題文】

顔面はいろいろな意味を持っている。私たちは生命の維持のために外界から空気や食物などを取り入れなければならないが、顔面はその取り入れ口にあって、取り入れるものを探したり、識別したり、取り入れの可否を監視したりする役割を持っている。したがって感覚器官のほとんどは顔面にある（触覚だけ全身にある）。物を探すためには目が重要な役割を持っているが、目的物を捕らえるためには、目線を上げて見開く必要がある。逆に捕らえたくないものに対しては、目線を避けたり目を閉じたりする。あるいは取り入れたくないものに対しては口も閉じる。

人間の場合、気分を始め感情や情動は、顔面に最も表れやすい。他人の感情を判断するのは顔の様子である。顔の中でも「目は口ほどにものをいい」という諺^{ことわざ}のように目の動き（視線や目の周り）が大きな役割を果たす。口の周りの動きも同様である。好意を持っているときは、目を見開き、視線は見つめ、口は口角が上がったり、開けたりする。刺激を受け入れる反応である。逆に嫌悪は目を閉じるか、眉間に縦皺^{たてじわ}がより、口は固く閉じる。

快の感情（対象に対してポジティブな感情）に対しては、目が開き、口が開き、不快な感情（対象に対してネガティブな感情）には閉じる。表情とは元来は外界との関係においてなされていった反射的な反応が根底にあって、意志的な反応が可能になってからは、特に快一不快の感情との関係が深くなってきたものと考えられる。

視線はまた二律背反の性質を持っている。すなわち視線は時に攻撃的性質を持っている。たとえば相撲の仕切りのときの力士の目である。一方で視線は愛情を表す。母親が赤ちゃんや幼児を見る目である。子どもはよく母親に向かって「見て～」と要求するであろう。視線には二つの相反する性質があるので、成人では、対人関係のときに視線に困ることが起こるのである。

出典『動きが心をつくる 身体心理学への招待』(春木豊 著、講談社、2011年)

*二律背反(にりつけいはん)：相互に矛盾し対立する二つの命題が、同じ権利をもって主張されること。

注1：必要に応じて漢字にルビをふった。

注2：設問を理解しやすくするために下線をほどこした。

注3：原文の縦書きを横書きにした。